

津市立三重短期大学・三十三総研主催

第19回 小論文・作品コンクール

「人口問題へのアプローチ

～地域社会の未来に向けた私の提言～」

|入|賞|作|品|集|

2026年3月

津市立三重短期大学・三十三総研

目 次

1. 第 19 回小論文・作品コンクール「人口問題へのアプローチ～地域社会の未来に向けた私の提言～」	1
(1) 実施概要	1
(2) 入賞作品	3
最優秀賞：漁村の青春拠点～人口流出を防ぐ、心的波止場～（高坪 龍司）	3
学長賞：トルネードッグ～伊勢うどん巻き～（向井 望）	6
優秀賞：炊飯器で出来る！かぼちゃ入りキャロットケーキ（新貝 柚乃）	11
優秀賞：教育への投資～少子化と AI 時代の調和のために～（中路 新平）	16
新人賞：スプーンですくって食べるカラフルコロッケ（伊東 愛莉）	24
佳作：天むすだんご（鈴木 百香）	28
佳作：津市立三重短期大学新キャンパス（高 永暎）	31
佳作：人口減少は労働力不足に直結するのか～障害者雇用が見出す新たな職場の在り方～ （尾田 茉優）	33
奨励賞：労働の面から捉えた人口流出問題についての考察（山口 来夢）	38
2. 参考資料	43
応募ポスター	44
募集要領	45
表彰式次第	46

1. 第19回小論文・作品コンクール

「人口問題へのアプローチ～地域社会の未来に向けた私の提言～」

(1) 実施概要

津市立三重短期大学と三十三総研では、産学連携事業の一環として、津市立三重短期大学生を対象に「人口問題へのアプローチ～地域社会の未来に向けた私の提言～」というテーマで、小論文、レシピやデザインなど作品を募集し、合計47点の応募をいただきました。

選考委員会による厳正な選考の結果、下記の通り、最優秀賞1作品、学長賞1作品、優秀賞2作品、新人賞1作品、佳作3作品、奨励賞1作品が選出されました。

入賞者の皆様にお祝い申し上げますとともに、ご応募いただきました学生の皆様に感謝申し上げます。



2026年1月29日 津市立三重短期大学・三十三総研主催 第19回小論文・作品コンクール表彰式
津市立三重短期大学 校舎棟4階41教室において

選考委員・審査委員 紹介

選考委員長	：村井 美代子	学長
選考委員	：石原 洋介	地域連携センター長
選考委員	：鎌塚 有貴	法経科 講師
選考委員	：杉野 香江	食物栄養学科 准教授
審査員	：南 有哲	生活科学科 教授
審査員	：小野寺 一成	生活科学科 教授
審査員	：木下 誠一	生活科学科 教授
審査員	：生川 美江	非常勤講師

審査結果

各賞氏名(順不同、敬称略)

最優秀賞 1作品

- ◎「漁村の青春拠点～人口流出を防ぐ、心的波止場～」
高坪 龍司 (生活科学科 2年)

学長賞 1作品

- ◎「トルネードッグ～伊勢うどん巻き～」
向井 望 (食物栄養学科 2年)

優秀賞 2作品

- ◎「炊飯器で出来る！かぼちゃ入りキャロットケーキ」
新貝 柚乃 (食物栄養学科 2年)
- ◎「教育への投資～少子化とAI時代の調和のために～」
中路 新平 (法経科第2部 2年)

新人賞 1作品

- ◎「スプーンですくって食べるカラフルコロッケ」
伊東 愛莉 (食物栄養学科 1年)

佳作 3作品

- ◎「天むすだんご」
鈴木 百香 (食物栄養学科 2年)
- ◎「津市立三重短期大学新キャンパス」
高 永暎 (生活科学科 2年)
- ◎「人口減少は労働力不足に直結するのか～障害者雇用が見出す新たな職場の在り方～」
尾田 茉優 (生活科学科 2年)

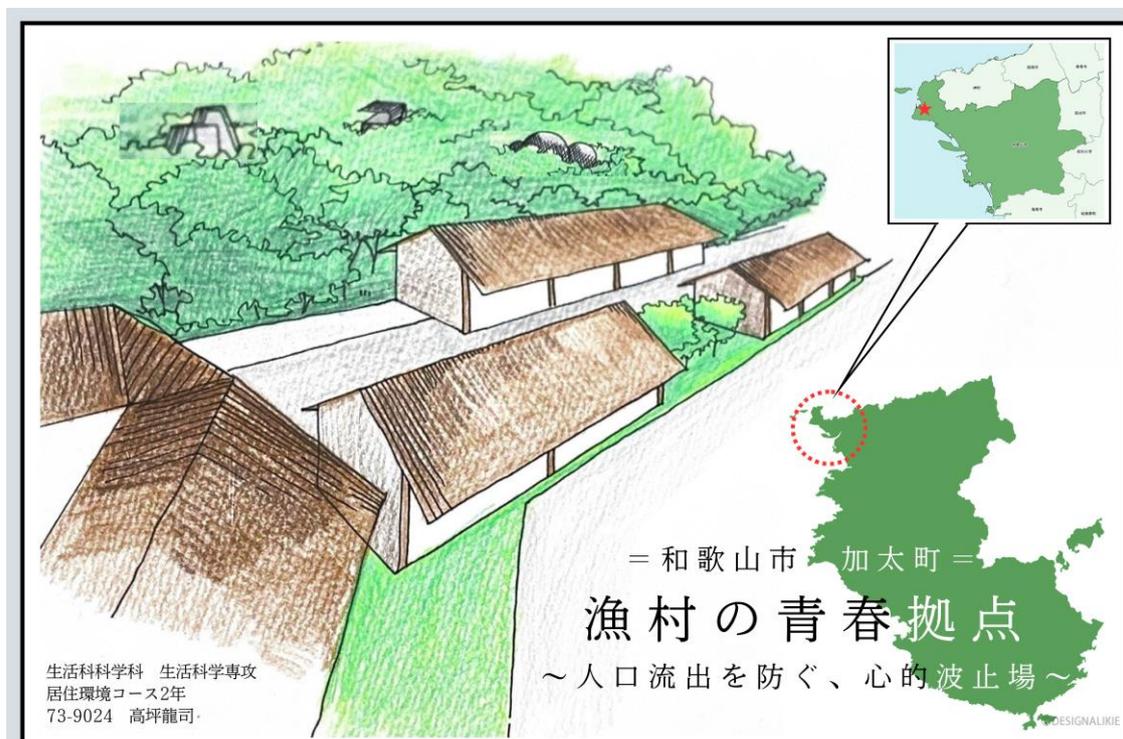
奨励賞 1作品

- ◎「労働の面から捉えた人口流出問題についての考察」
山口 来夢 (法経科第1部 法律コース 1年)

(2) 入賞作品

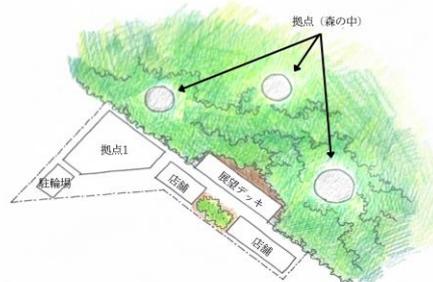
最優秀賞：漁村の青春拠点～人口流出を防ぐ、心的波止場～

生活科学科 2年 高坪 龍司



CONCEPT…

地方都市における若者の流出は、人口問題の中でも深刻な課題です。その背景には、学生時代に地域で過ごす「青春の記憶」が乏しいことがあると私は考えます。放課後に友達と語り合う場所、買い食いや勉強を通じて育まれる絆——そうした日常の体験が、将来の「帰りたい場所」としての原風景を形づくるのです。若者が「また帰ってきたい」と思えるような、青春の記憶を育む拠点を地域に設計すること、それは将来家庭を持ったときに「自分が育った町で子どもを育てたい」と思えるような、心の拠り所となる空間をつくることでもあります。そこで本構想では【小学生】と【中学生】の二つの世代に焦点を当て、彼らの心に残る体験を育む空間づくりを目指します。



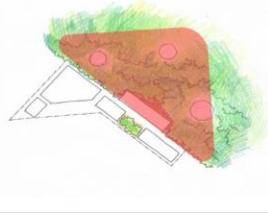
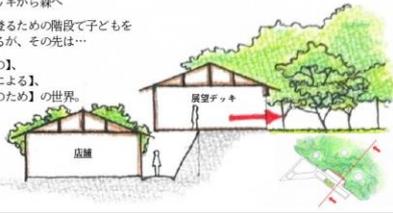
PROJECT SITE…

本エリアの周辺は、駅（東側）のほかに市役所や小中学校、郵便局（南西側）などの公共施設が集まっており、住民の生活を支える中核的な場所となっています。日常的に人の流れがあり、交流が生まれやすい環境が整っています。

～山に入る仕組みと迷わない工夫～

・展望デッキから森へ
デッキへ登るための階段で子どもを確認できるが、その先は…

【子どもの】、
【子どもによる】、
【子どものための】世界。



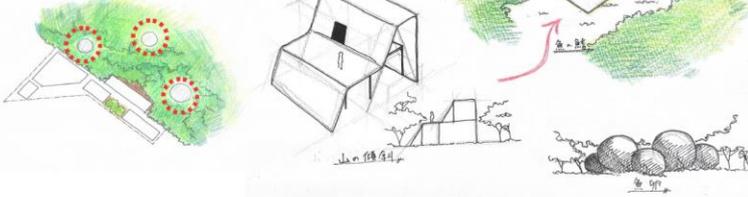
・拠点（森の中）の存在

森で迷わないための目印として設置。
また、目立つようにするためには、特徴的なカタチの必要がある。
海と山に挟まれた、加太ならではのカタチを提案。

【魚の鱗】

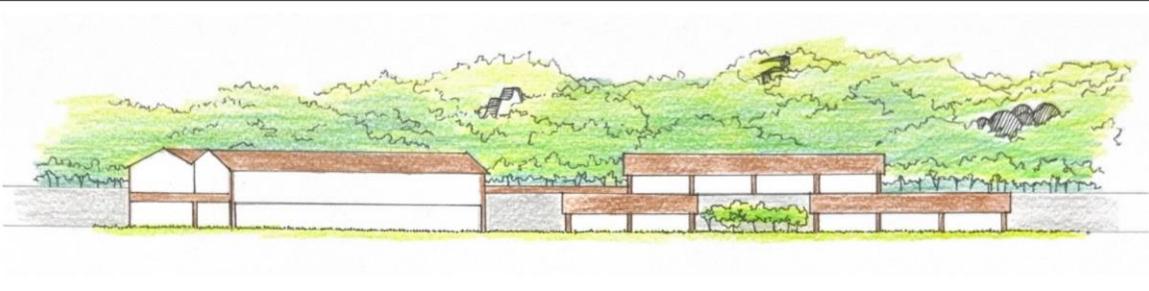
【山の傾斜】

【魚卵】



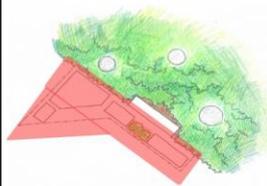
【小学生】「閉じた世界」…

小学生時代の青春とは、駄菓子屋での買い食いや広場での遊び、山に自分たちだけの秘密基地をつくること、日記帳を交換してコソコソ話を共有することなど、日常の中にある小さな冒険です。特に後者のような行動には、親や先生といった大人の干渉を意図的に遮り、子どもたち自身が安心して心を開ける「閉じた世界」を求める欲求が表れています。見守りやすく開かれた空間は、むしろ大人の安心のための設計であり、子ども自身のための空間とは言い難いものです。少し暗くて狭い、大人にはとどり着けないような過干渉されないところが、本当に必要な場所。そうした「子どもだけの閉じた世界」を意図的につくることこそが、小学生のための空間なのです。



【中学生】
「自由な居場所」…

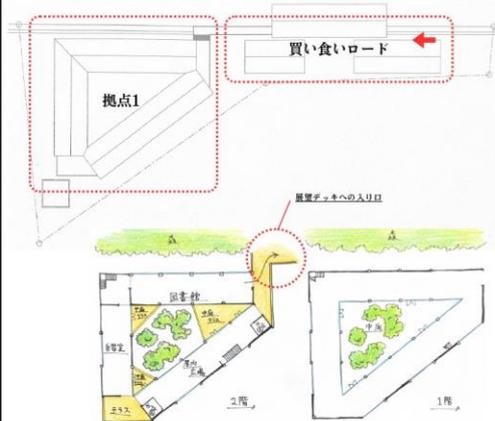
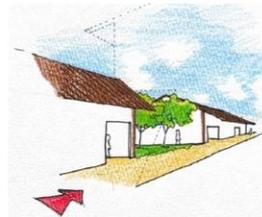
中学生時代の青春は、図書館での勉強会や喫茶店での何気ない会話、映画館やカラオケなど、勉強やお金を使った活動が中心です。これらの場所は、自宅や学校以外の「サードプレイス」として機能し、長時間滞在できる心地よい空間が求められます。休日の利用も考えられますが、こうした活動が放課後に行われることで、より強く記憶に残る経験になります。目的を持たずにふらりと立ち寄り、そこで何をするかを自分で決められるような自由で心地よい居場所、それが中学生にとって必要な空間なのです。



・買い食いロード

歩きながら食べられるようなものを店舗に入れる。授業や部活動が終わった後のちょっとした自分へのご褒美、まさに放課後の醍醐味である。

【駄菓子屋さん】、【揚げ物屋さん】、
【パン屋さん】、【アイスクリーム屋さん】、
【たい焼き屋さん】、etc.



・拠点1の計画と機能

三角中庭…
中心に三角形の大きな中庭を配置し、ガラスの壁と扉で囲うことで、内外の関係性を曖昧に。

放課後の延長…
細長い空間にすることを意識し、掃り道の路地を歩いているかのような印象を与えることを目指した。

確認の目…
展望デッキへの入り口はこの拠点を通らなければ、通り抜けられない。誰が森に入ろうとしているのかを確認できる。

1階空間の利用…
2階は用途がはっきりしているのに対し、1階は特に決まったことはない。あらゆる出来事を寛容に見守る自由な場所、屋根のある「公園」のような利用を期待している。

高坪 龍司

「漁村の青春拠点～人口流出を防ぐ、心的波止場～」に対する講評

選考委員 木下 誠一

本作品は、漁村である和歌山市加太において、若者の流出を防ぐために、青春の記憶を育み、心の拠り所となる拠点施設を計画したものです。地域への愛着形成には、子どもの頃から積み重ねてきた地域での多様な体験や人とのつながりが欠かせませんが、そのような場や機会が減少しつつある今日において、こうした施設を計画する意義は大きいと思います。

提案内容は、「心的波止場」という漁村にちなんだタイトル設定から小中学校との関係性を踏まえた敷地選定、さらに地域にゆかりのある形をモチーフとした具体的なデザインまで一貫しており、全体として明確なストーリー性を感じられます。また、手描きスケッチの表現からは、作者の地域に寄せる温かな想いが伝わってきます。

施設計画においては、地形の高低差を活かして小学生と中高生の領域を巧みに分節しています。また、住宅地に面して配置された建物群は低層に抑え勾配屋根にして景観に配慮する一方、森の中に点在する建物は自由な独創的造形としているなど、場所の特性を丁寧に読み取りながらデザインしていることも高く評価できます。

今後、建物のファサードや家具レイアウト、素材や構造など、より細部にわたる検討が進めば、この提案の魅力がさらに増すと思います。

学長賞：トルネードッグ～伊勢うどん巻き～

食物栄養学科 2年 向井 望

1. 提供する対象とコンセプト

現在、三重県は過疎化や高齢化が進むとともに、令和3年の県外への転出超過数は3480人と依然15歳～29歳の若者の転出が多く、人口減少が進んでいます¹⁾。

そこで、地元の魅力を知ってもらいながら多世代間の交流を深めることを目的として、「トルネードッグ～伊勢うどん巻き～」を考案しました。

伊勢うどんは、独特の太くて柔らかい麺に、少量のたまり醤油をベースにしたたれがかかったうどんです。その発祥は江戸時代までさかのぼり、伊勢参りにおける代表的な食べ物の一つとして、現在も多く観光客に親しまれています²⁾。

今回考案したトルネードッグは、独特の食感を活かすために伊勢うどんをフランクフルトに巻き、揚げたおやつです。このトルネードッグは、子どもから大人まで誰でも食べやすく、片手で気軽に楽しめます。伝統的な伊勢うどんを今風にアレンジすることで、私たち若い世代にも親しみやすく、見た目もインパクトがあり、SNS映えするように工夫しました。

家庭で楽しめるほか、地域のお祭りやイベントでも提供しやすく、たくさんの人に三重県の魅力を知ってもらえると考えています。

参考文献

1) 三重県, 本県の人口減少の現状 <http://www.pref.mie.lg.jp/common/content/001029278.pdf> (閲覧日 2025年11月20日)

2) 伊勢市公式HP, 伊勢うどん https://www.city.ise.mie.jp/cul_spo_edu/culture/bunkazai_shiseki/iseudon.html (閲覧日 2025年11月20日)



2. 出来上がり写真



写真は2人分です。

3. 1人分の分量

食品名	1人分(1本)の重量(g)	5人分(5本)の重量(g)
ホットケーキミックス	8	40
牛乳	4	20
卵	3	15
サラダ油	5	25
フランクフルト	1本	5本
伊勢うどん	25	125
ケチャップ	3	15
マスタード	1	5

4. 作り方

- ①牛乳と卵をボウルに入れよく混ぜる。
- ②①にホットケーキミックスを加えダマがなくなるまで混ぜる。
- ③伊勢うどんを茹でてザルにあげる
- ④フランクフルトに②の生地を絡ませ、③の伊勢うどんを巻く。
- ⑤160℃の油で生地が膨らんできつね色になるまで、ときどき転がしながら揚げる。
- ⑥盛り付けて、ケチャップ、マスタードを添える。

5. 栄養価

エネルギー	214kcal
たんぱく質	5.7g
脂質	16.1g
食物繊維総量	0.5g
炭水化物	13.6g
食塩相当量	0.9g
カルシウム	19mg
鉄	0.3mg
レチノール活性当量	11 µg RAE
ビタミンB ₁	0.14mg
ビタミンB ₂	0.07mg
ビタミンC	11mg
※油の吸収率は15%で計算	

6. 原価表

食品名	原価		
	1人分 使用量 (g)	単価 (円)	1人分 価格 (円)
ホットケーキミックス	8	63 円/100g	5.04
牛乳	4	24.1 円/100ml	0.96
卵	3	21 円/1 個	1.26
サラダ油	2.5	28 円/100g	0.7
フランクフルト	33	143 円/100g	47.19
伊勢うどん	25	93 円/100g	23.25
ケチャップ	3	46 円/100g	1.38
マスタード	1	3.2 円/1g	3.2
	合計		78.4 円



写真：ゆでた伊勢うどんを巻いている様子



写真：油で揚げている様子

向井 望

「トルネードッグ～伊勢うどん巻き～」に対する講評

選考委員長 村井 美代子

向井望さんが考案された「トルネードッグ～伊勢うどん巻き～」は、フランクフルトソーセージにホットケーキミックスを絡めたアメリカンドッグのベースに、太くて柔らかい伊勢うどんを巻きつけて揚げるというレシピです。発想の大胆さと見た目のインパクト、そして年齢を問わず楽しくいただける親しみやすさを評価しました。

人口問題は数多くの自治体が直面している課題であり、三重県でも過疎化や高齢化が進んでいます。そうした状況の中、地域の魅力をあらゆる世代に発信し共有していくことは重要です。伊勢市を中心に昔から親しまれている伊勢うどんは、通常はたまり醤油をベースにしたたれと一緒にいただくものですが、この伝統的な麺が、お祭りや縁日の屋台などで若い世代にもなじみのあるアメリカンドッグと一緒に、和風と洋風がミックスされたユニークなレシピが生まれました。郷土料理に詳しい世代も、そうでない世代も、様々な人が一緒に楽しみながら、地域の魅力を知る機会を共有できることと思います。

今後も本学で修得された専門分野の知識に加えて、地域のこと、食事をする人のことを思う優しい心を失わず、常識にとらわれない自由な発想を大切に、一層成長されることを期待しています。

優秀賞：炊飯器で出来る！かぼちゃ入りキャロットケーキ

食物栄養学科 2年 新貝 柚乃

1. 【提供する対象者とコンセプト】

子育て支援やフードロスの削減、地元食材の活用を目的として炊飯器で作れるかぼちゃとにんじんを使ったケーキを考案しました。対象者は、野菜が苦手な子どもとその保護者です。

かぼちゃやにんじんを生地混ぜ込んで焼くことで自然な甘味が引き出され、子どもでも食べやすくなるよう工夫しています。甘いケーキとして楽しみながら野菜を摂取でき、骨や神経を作るために必要なビタミンAやカルシウム¹⁾ ²⁾に加え、食物繊維も補給できます。食物繊維摂取量が不足している子どもは特に便秘になりやすいことが指摘されているため³⁾、間食で野菜を取り入れ、摂取量を増やしたいと考えました。このレシピでは、緑黄色野菜の1日の目標量の約25%、食物繊維を1.5g摂ることができます。

また、炊飯器で手軽に作る事が出来るため、オーブンがない家庭でも作れること、子どもと一緒に安全に作る事が出来る点に特徴があります。通常のケーキと同様に型に生地を流し込みオーブンで焼くこともできます。

さらに、かぼちゃとにんじんは皮ごと使用することで廃棄率を減らし、フードロス削減にもつなげました。ハロウィンなどの特別な日にも最適なケーキです。トッピングのクリームには三重県の名産品である伊勢茶を練り込み、地元食材の活用にも配慮しました。伊勢茶を加えることで茶葉の風味が全体の味わいを調和させています。

<参考文献>

- 1) 柏下淳、上西一弘、「栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学 第3版」羊土社 (2025) P145～146
- 2) 柏下淳、上西一弘、「栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学 第3版」羊土社 (2025) P153
- 3) 「日本人の食事摂取基準 (2025年版)」策定検討会報告書 (厚生労働省) II各論2 対象特性乳児・小児 P6、<https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/001316472.pdf> (2025年11月20日閲覧可能)

2. 【出来上がり写真】



写真は6人分

3. 【1人分の分量】(1/6切れ)

かぼちゃ	22 g
にんじん	10 g
無塩バター	3 g
卵	6 g
砂糖	5 g
牛乳	15 g
薄力粉	18 g
ベーキングパウダー	0.5 g
クリームチーズ	10 g
砂糖	3 g
伊勢茶	0.1 g

4. 【1人分の栄養価】（1/6切れ）

エネルギー	187kcal
たんぱく質	4.1g
脂質	7.4g
炭水化物	28.2g
食物繊維	1.5g
カルシウム	50mg
鉄	0.3mg
レチノール活性当量	187 μ g RAE
ビタミン B ₁	0.06mg
ビタミン B ₂	0.10mg
ビタミン C	10mg
食塩相当量	0.2g

5. 【調理方法】

- ①かぼちゃはラップをして600Wの電子レンジで2分加熱し切りやすくした後、1.5~2cmの角切りにして2分程度電子レンジで再加熱する。
- ②無塩バターは600Wの電子レンジで30秒加熱しクリーム状にする。にんじんはよく洗い皮ごとすりおろす。
- ③ボウルに②と卵、砂糖、牛乳の順に入れて泡立て器でよく混ぜる。
- ④③に薄力粉、ベーキングパウダーを合わせてふるい入れダマが無くなるまで混ぜる。
- ⑤かぼちゃを入れてサッと混ぜ合わせ、生地を流し、通常の炊飯モードで炊く。
- ⑥炊きあがったものを取り出して網の上で冷ます。
- ⑦常温に戻したクリームチーズに砂糖と伊勢茶を混ぜてトッピングし、一人分の大きさに切る。



炊きあがったケーキを炊飯器から取り出した状態



型に流してオーブンで焼いた場合の出来上がり写真

【オーブンで作る場合】

準備：オーブンを 180℃に予熱する。

(①～④は同様調理。)

⑤お好みの型に生地を流しオーブンで 180℃15 分間焼く。(⑥～⑦は同様調理。)

新貝 柚乃

「炊飯器で出来る！かぼちゃ入りキャロットケーキ」に対する講評

選考委員 杉野 香江

新貝さんが考案されたレシピは、子育て支援、フードロス削減、地元食材の活用という複数の社会課題に着目し、「人口問題」というテーマに対し、多角的にアプローチできている点が高く評価されました。人口減少が進む中で、子育て世帯の負担軽減や子どもの栄養確保は重要な課題であり、炊飯器で手軽にすることができる調理方法は、忙しい家庭でも取り入れやすく、実生活に寄り添った提案になっています。

野菜が苦手な子どもを対象に、かぼちゃやにんじんの自然な甘みを生かして食べやすく仕上げていることに加え、ビタミンA、カルシウム、食物繊維といった不足しがちな栄養素を間食で補える点は、子どもの健康維持に寄与し、将来的な健康寿命の延伸にもつながると考えられます。さらに、野菜を皮ごと使用することで廃棄率を下げ、フードロス削減に繋がり、持続可能な食環境づくりに貢献している点も評価できます。また、伊勢茶を取り入れたクリームは、地域資源の活用という観点からも意義があり、地元産業の支援や地域活性化といった人口問題の側面にも配慮が見られます。

今後も、さまざまな視点から魅力あるレシピを生みだしていただけることを期待しています。このたびは優秀賞の受賞、誠にありがとうございます。

優秀賞：教育への投資

～少子化と AI 時代の調和のために～

法経科第 2 部 2 年 中路 新平

1. はじめに

人口減少問題を考える場合、まず、人口が減少することは解決可能なのか。

そして、人口が減少することは問題なのであろうか。

人口問題についての検討がなされる場合、現在の日本では、まず人口減少問題が取り上げられる。その趣旨も多くは、どのようにすれば人口の減少に歯止めがかけられるか、人口を増やすにはどうすればよいか、という点に焦点が当てられる。日本では、30 年以上にわたり、少子化傾向を抑えるため、結婚・子育てのしやすい環境整備、子育て支援、児童手当の拡充等の経済支援、働き方改革の推進等を実施している。しかし、婚姻者数の減少と出生率の低下は続き、政府の政策は結果として結びついていない。また、近年の第 4 次 AI ブームにより、社会環境が劇的な変化を迎えている。大規模言語モデルの生成 AI・対話型 AI の登場により、産業革命と同様の社会変革をもたらされようとしている。10 年後、30 年後に求められるのは、これまでの日本社会のように様々な業界や職種で広く活躍できる「汎用性の高い人材」だろうか。そうではなく「人間ならではの能力を持つ人材」ではないか。教育への投資は、効率が良いと言われている。現在の日本で求められることは、将来を担う人材の育成、そのための教育環境に対する投資・再構築ではないか。

2. 日本の現状

1989 年の「1.57 ショック」を機に、「人口減少社会」という言葉が、専門家以外の間でも広く本格的に用いられるようになったのは、2005 年 12 月に、「2005 年国勢調査」の最初の集計結果である速報人口を統計局が公表したころからⁱである。しかしながら、合計特殊出生率は、1989 年の 1.57 から 2024 年には過去最低の 1.15 へと減少している。「政府は、人口減少問題に対応する司令塔機能として「人口戦略本部」を月内にも新たに設置ⁱⁱと未だ人口減少については対策の途上だ。また、人口減少は世界的に進んでいる。「今後、世界人口は少子化の進展で人口増加率が徐々に低下し、2084 年に 103 億人でピークを迎え、減少し始めるⁱⁱⁱと予想されている。現状でも、合計特殊出生率(2023 年)が日本(1.20)を下回る国は多数存在する(図表 1)。これらの国々、例えば、イタリアやスペインでは、教育・医療・年金を縮小人口用に再構築し、地方自治体を統合し、さらに行政効率化を推進している。韓国でも同様に、国土開発の集中と集約を実施し、都市開発も少子化・高齢化を前提にシフトしている。日本では、主に自治体について、DX 推進、コンパクトシティへの志向、教育分野では理系大学へ重点強化などが行われつつある。

3. 教育制度の比較

教育の再構築を考えるために、まずは、昔から技術力を評価される GDP 世界 3 位のドイツ、教育について長らくお手本と言われたフィンランドの教育制度について概観したい。

(1) ドイツ

ドイツの教育制度の特徴は、初等教育4年で進路が分かれることだ。中等教育は、「ハウプトシューレ(卒業後に就職して職業訓練を受ける者が主として進む。5年制)、実科学校(卒業後に職業教育学校に進む者や中級の職につく者が主として進む。6年制)、ギムナジウム(大学進学希望者が主として進む。9年制)が設けられている」^{iv}。高等教育は、大学(4年半)と高等専門学校(4年以下)であり、公立学校が中心で、大学までの授業料が無償だが、大学院については一部有料となる。

(2) フィンランド

フィンランドでは、7～16歳までの基礎教育の後、後期中等教育は、普通高校と職業専門学校に分かれる。高等教育は、研究を中心とした教育で修士号取得を前提とする学術大学と職業に直結した応用科学大学という選択肢に分かれる。就学前教育から大学院まで無償。教員は修士号必須、また継続的な再教育が奨励されている。

(3) 日本

では、日本はどうだろうか。日本の教育制度の特徴としては、高等学校への進学率が約99%。そのうち、ドイツ、フィンランドでの職業専門の学校に相当する、専門教育を主とする学科は21.4%(2020年)である。^v 高等教育では、「人口1,000人あたりの高等教育機関在学者数を見てみます。日本は30.4人に対し、アメリカは59.8人、イギリス42.8人、韓国61人と大きな差があります。さらに、大学院に限ると日本はわずか2.02人。一方、アメリカ9.38人、イギリス11.11人、ドイツ13人、韓国6.19人」「世界では「高学歴」と言えば大学院修了者を意味するのにに対し日本の高等教育は学部中心」^{vi} である点が大きな違いである。高等教育の役割としては、「初等中等教育における「自ら学び、自ら考える力」の育成を基礎に「課題探求能力の育成」を重視するとともに、専門的素養のある人材として活躍できる基礎的能力等を培うことを基本として」^{vii} いる。

単に人口が減少するだけならば、現状の教育システムで良いかもしれない。実際、2022年のPISAの結果を見れば、日本は上位に位置している。しかし、2022年以降AIは恐ろしい勢いで発達し、様々な分野で人間を不要とする存在に育ちつつある。このような転換期に必要なとされるのは、人間ならではの能力を持つ人材育成である。そのためには、今のまま学部中心という考えでは、AIの発達に追いつけないのではないかと。

4. AIの発達と社会

(1) AIにより奪われる仕事

AIが、第4次のブームを迎え、これまでとは別の次元での利用がなされている。オックスフォード大学と野村総研の共同研究では「10～20年以内に日本の労働人口の49%の仕事がAIの導入によってなくなる可能性がある」^{viii} と示されている。特に、一般事務職、電車タクシー等の運転手、銀行員、会計監査、コールセンター業務等の定型的で繰り返し行う業務については、AIの得意分野である。ソフトウェアプログラマーでさえ既に対象となり、米マイクロソフトでは大規模な人員削減が行われている。「削減対象とされた州内の従業員約2,000人のうちソフトウェアエンジニアリング職が40%余りと、職種別で最多」^{ix}となっている。要因として、初期レベルのプログラミングが人の手からAIに移されていると考えられる。事実、マイクロソフトでは、「一部プロジェクトでは最大30%のコードがAIによって生成されている」^x とCEOが述

べ、グーグルの CEO も同様のことを述べている。その他の分野であっても、新入社員に与えられるような作業(データ入力整理、リサーチ、情報整理、資料作成等)で、A Iによる代替が容易である。今後、求められる人材は、A Iに代替されない能力を持つ者となる。

(2) 日本の教育制度への影響

日本の高等教育が学士中心である理由として、日本の会社が新入社員を入社後、教育するという伝統がある。しかし、その伝統が今後も続く保証はない。A Iの発展により、新入社員の仕事がA Iに代替され、効率化が図られれば、そのような伝統は贅沢となり、求められる人材はアメリカのように即戦力のみ、となるだろう。その時、学生に求められるのは即戦力として、専門性、経験、A Iで替えのきかない能力等を持つ必要がある。専門性としては、大学院終了は勿論、大学自体もレベルアップを求められる。経験は、専門の学校で学ぶ、会社によるインターンの義務化・長期化が考えられ、既存の大学とは競争(授業の出席とインターンへの参加)の関係になってしまう可能性がある。A Iで代えのきかない能力を必要とする仕事に求められるのは、創造的な人材、職人的な人材、対人能力が重視される人材、芸術的な人材、そして、高度な課題解決能力を必要とする人材等である。

5. 進むべき教育環境

最後に、現状で、そのような人材を育てられる制度になっているかどうかについて検討する。

(1) 理系分野

理系人材の強化は喫緊の課題である。言語力と海外留学人材の強化、文系学部についても、専門性の向上、対人能力や課題解決能力を強化するプログラム等の増強も必要である。理系の人材の比率が世界的に低い点については、政府も「理系分野を専攻する大学生の割合について、令和14(2032)年ごろまでに世界トップクラスの50%程度まで引き上げる目標を掲げ」^{xi}、改善を目指している。

(2) 文系分野

文系学部については、入るのが難しく卒業は楽という現行から、上記能力を獲得するための修学期間のような授業・単位取得の難化を目指すべきである。

(3) 共通課題としての語学力

語学力、特に英語能力の強化は長年言われ続けており、プログラム言語についても必須とすべきであろう。英語力が伴わなければ、海外留学人材の増加も乏しいが、2004年をピークに現在まで下降の一途を辿っている。

教育への投資は、本来効率が良いと言われている。多くは、幼児教育について論じられているが、高等教育についても、「大学生への政府投資の実質内部収益率は、インフレ率を上回る10.3%と控えめに推計される」^{xii}、OECDも「高等教育への投資は長期的には公共部門に利益をもたらす」「学士以上の高等教育からの収益は短期高等教育からの収益を上回る」^{xiii}と述べている。もちろん、いくら子供の数が少なくなり、教育への投資を行うといっても、全ての人が高等教育を受ける適性があるわけではない。専門教育を主とする学科のうち、工業高校の2023年度の求人倍率は27.2倍である。専門技術を持つ人材は、A I時代にも必要とされる。それなのに進学率は1970年の41.5%から2020年21.4%と減少している。^{xiv} 所謂ホワイトカラーへ進むことを良しとしてきた価値観の変化も必要となる。

6. おわりに

日本の人口減少は、数々の施策が行われているが、今後も減少傾向は続くであろう。それは、世界的にも同様である。そして、人間の仕事を置き換えられる存在として、A Iは飛躍的な進化を遂げている。資源のない日本が、極端に言えば、これまでのように義務教育段階までしか金を出さないのであれば、取り柄であった優秀な人材は輩出されなくなる。残されるのは、世界から取り残された、食料も自給できない元先進国である。中等・高等教育の無償化、教育機関の分野別の充実、大学院へ進むという選択肢を広げる、といった欧州では当たり前のことを、遅ればせながらも進めるべきである。大学を出るために半数が多額の借金を背負う制度、学士で良いという日本の特徴、専門教育を主とする学科の減少は、貴重な存在であり、未来を背負う子供を育てる時代に逆行している。

経済において、投資は経済成長の推進力であることは自明の事である。少なくなる子供という資源を効率的に、かつ高度に教育するためには、投資が必要である。ましてや、そのリターンが大きいことは昔から言われている。今、教育への投資と再構築を行わなければ、日出る国は落日の国となる。陽はまた昇る、その未来のために、教育について、改めて予算の拡充等の改革・投資こそが、今後の日本に必要である。

図表 1

世界の合計特殊出生率

国別ランキング

順位	国名	単位： 人
1	ソマリア	6.13
2	チャド	6.12
3	ニジェール	6.06
～中略～		
189	コスタリカ	1.33
189	スイス	1.33
191	オーストリア	1.32
191	ギリシャ	1.32
193	エストニア	1.31
194	カナダ	1.26
194	フィンランド	1.26
196	ルクセンブルク	1.25
197	タイ	1.21
198	ベラルーシ	1.21
199	キュラソー	1.20
199	イタリア	1.20
199	日本	1.20

順位	国名	単位： 人
199	アラブ首長国連邦	1.20
203	リトアニア	1.18
204	チリ	1.17
205	ポーランド	1.16
206	サンマリノ	1.15
207	スペイン	1.12
208	アンドラ	1.08
209	マルタ	1.06
210	英領ヴァージン諸島	1.05
211	中国	1.00
212	ウクライナ	0.98
213	シンガポール	0.97
214	プエルトリコ	0.92
215	台湾	0.87
216	香港	0.75
217	韓国	0.72
218	マカオ	0.59
999	世界計	2.20

資料: GLOBAL NOTE 出典・参照:世銀(World Bank)

【参考文献】

- ⁱ 総務省統計局「統計 Today No. 9」(2012年11月28日)、
<https://www.stat.go.jp/info/today/009.html> (閲覧日 2025年11月12日)
- ⁱⁱ 朝日新聞「高市首相トップの「人口戦略本部」月内にも新設へ 人口問題の司令塔」(2025年11月12日)
- ⁱⁱⁱ SOMPO インスティテュート・プラス、上席研究員 岡田豊「少子化が推計以上に進展する可能性～国連世界人口推計で見る世界①～」(2024年10月4日)<https://www.sompo-ri.co.jp/2024/10/04/14099/#:~:text=%E3%81%9D%E3%82%8C%E3%81%AB%E3%82%88%E3%82%8B%E3%81%A8%E3%80%81%E4%B8%96%E7%95%8C%E4%BA%BA%E5%8F%A3,%E3%81%A8%E3%81%AA%E3%82%8B%EF%BC%88%E5%9B%B3%E8%A1%A81%EF%BC%89%E3%80%82> (閲覧日 2025年11月16日)
- ^{iv} 文部科学省「ドイツの学校系統図」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/015/siryo/attach/1374965.htm (閲覧日 2025年11月19日)
- ^v 文部科学省「高等学校教育の現状について」(令和3年3月)、
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kaikaku/20210315-mxt_kouhou02-1.pdf (閲覧日 2025年11月23日)
- ^{vi} KPMG コンサルティング「日本の大学～世界と比較して見えてくる特異性」
<https://kpmg.com/jp/ja/home/insights/2025/06/university-society-01.html> (閲覧日 2025年11月19日)
- ^{vii} 文部科学省「高等教育の役割」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chuuou/toushin/991201d.htm (閲覧日 2025年11月19日)
- ^{viii} 野村総合研究所「日本の労働人口の49%が人工知能やロボット等で代替可能に」(2015年12月2日) <https://www.nri.com/content/900037164.pdf> (閲覧日 2025年11月12日)
- ^{ix} Bloomberg「AIでソフト開発者に解雇の波、マイクロソフトの米大規模人員削減」(2025年5月15日) <https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2025-05-14/SW9MHIT1UMOW00> (閲覧日 2025年11月12日)
- ^x 神田敏晶「AIに仕事を奪わせたMicrosoft、エンジニアと管理職がリストラ対象」(2025年5月19日)<https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/6c0774daa0e6e1e092c023fb6ad6af81c909f013> (閲覧日 2025年11月19日)
- ^{xi} 産経新聞「理系大学生35%、OECD加盟国に見劣り…自然科学分野ノーベル賞なしの日本」(2023年10月5日)、<https://www.sankei.com/article/20231005-MXBRYJSQKJN47F4LICL2PCQWBA/> (閲覧日 2025年11月28日)
- ^{xii} Federal Reserve Bank of Boston、PA Trostel「High Returns: Public Investment in Higher Education」、https://www.bostonfed.org/-/media/Documents/cb/PDF/Trostel_invest_in_higher_ed.pdf (閲覧日 2025年11月23日)

^{xiii} OECD 「教育からの公的収益」 <https://www.oecd.org/en/topics/public-returns-from-education.html#:~:text=Financial%20returns%20to%20tertiary%20education,governments%20gain%20the%20largest%20returns>. (閲覧日 2025 年 11 月 23 日)

^{xiv} 文部科学省 「高等学校教育の現状について」 (令和 3 年 3 月)、
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kaikaku/20210315-mxt_kouhou02-1.pdf (閲覧日 2025 年 11 月 23 日)

中路 新平

「教育への投資～少子化と AI 時代の調和のために～」に対する講評

選考委員 鎌塚 有貴

本論文の最も特徴的なところは、少子高齢化および人口減少を悪として改善策を提言するのではなく、これらの現象は諸外国を見ても不可避のものとして捉え、今の子どもたちが人口減の将来でもより活躍できる方策を探る点にある。そのなかで、教育に焦点を当て、今後は少なくなる子どもたちに対して、より専門的な教育を国が提供することを「投資」価値のあるものとして論じている。とくに、学士課程までの高等教育が一般的となっている日本の現状を、ヨーロッパの国と比較することによって批判的に説明している。そのうえで、今後ますます増大する AI 技術に淘汰されない人材育成のために、専門教育としての修士課程以上の高等教育の機会を提供するなどの提言がなされている。このように、人口減少に対する新しい視点から問題解決に取り組んでいる点が、独自性のあるテーマ設定および内容として高評価につながった。

ただし、今回は字数制限のあるなかで難しかったかもしれないが、国の施策だけではなく、反対に子ども側からみた「主体的」に学習することができる権利としての学習権などに言及した方が、より全体的に教育制度を理解することができたように思う。また AI 技術に淘汰されない人材と、AI を活用する人材に分かれていく社会についても、役割分担についてももう少し具体的なイメージがあると良かった。

新人賞：スプーンですくって食べるカラフルコロッケ

食物栄養学科 1年 伊東 愛莉

提供する対象とコンセプト

「スプーンですくって食べるカラフルコロッケ」は、少子高齢化社会や地域格差の問題に対応した新しい家庭料理です。対象は、嚥下機能が低下した高齢者から野菜嫌いの子ども、忙しい共働き世代です。透明カップを使用することで、一人分が明確になり、過食や食品ロスを防ぎ栄養管理もしやすくなっています。また、油で揚げず炒ったパン粉を使用することで、通常のコロッケと比べて油の量を6分の1に抑えることができ¹⁾、生活習慣病予防や高齢者の健康寿命延伸にもつながります。

簡単な工程で作ることができるため、小さな子どもから料理が苦手な大人まで一緒に料理を楽しむ機会を増やし、世代間交流を促進します。コロッケの中身は、かぼちゃとじゃがいもの二層構造です。ミックスベジタブルや合びきミンチ、たまねぎ、かぼちゃも使用しており、栄養も彩りも満点なコロッケです。

かぼちゃの皮まで使用することで、食品ロスの削減に貢献するとともに、食物繊維やβカロテン、ビタミンCの摂取量が増えるため²⁾、栄養価の向上も期待できます。

参考文献

- 1) 女子栄養出版部「調理のためのベーシックデータ第6版」揚げ物の給油率から計算
- 2) NORTH DISH, かぼちゃの栄養価を丸ごと紹介！種も皮も無駄なく食べよう：
<https://blog.north-dish.com/food-trivia/pumpkin-nutrition/> (2025年11月5日)

出来上がり写真



一人分の分量、食材費

材料	使用量	単価	金額
じゃがいも	50g	¥100 / 100g	¥50
かぼちゃ	40g	¥80 / 100g	¥32
たまねぎ	20g	¥40 / 100g	¥8
合いびき肉	20g	¥130 / 100g	¥26
冷凍ミックスベジタブル	5g	¥150 / 100g	¥7.5
バター	3g	¥250 / 100g	¥7.5
塩	0.3g	¥50 / 100g	¥0.15
こしょう	0.03g	¥300 / 100g	¥0.09
砂糖	1g	¥20 / 100g	¥0.2
パン粉	5g	¥50 / 100g	¥2.5
油 (サラダ油)	2g	¥20 / 100g	¥0.4
合計			¥134

1人前約134円で作ることができます！

ポイント

- ・高齢者への配慮 : 材料がペーストまたはみじん切りにしてあり、自分の食べたい量をスプーンですくって食べることができるため、嚥下機能が低下した高齢者の方も食べやすいです。
- ・子どもへの配慮 : ミックスベジタブルで彩りをよくし、またペースト状で口当たりを滑らかにしてあるため、野菜嫌いな子どもでも食べやすいように工夫しました。
- ・共働き世代への配慮 : 蓋つきの透明カップを使用すると、そのままふたを閉めて冷凍することでたくさん作り置きができます。時間のない時にも解凍してすぐに食べることができるため、忙しい共働き世代にもおすすめです。

作り方

1. 下ごしらえ

じゃがいもを1～2cm角に切る。かぼちゃは実と皮に分け、実を1～2cm角に切り、皮は3mm幅で色紙切りにする。玉ねぎはみじん切りにする。

2. 加熱

耐熱容器にじゃがいもとかぼちゃの実をそれぞれ入れ、電子レンジ(600W)で約3分ずつ加熱し柔らかくする。

フライパンに合いびき肉と玉ねぎ、かぼちゃの皮を入れて炒める。

肉の色が変わったらミックスベジタブルを加え軽く炒める。

3. マッシュ、混ぜ合わせ

温かいうちにじゃがいもとかぼちゃをそれぞれ潰し、バター、塩、こしょう、砂糖で味付けをする。じゃがいもに2で炒めた具材を加えて混ぜる。

4. 成形、仕上げ

透明な容器にじゃがいも、かぼちゃの順に入れ表面をならして、フライパンで炒ったパン粉を上から散らす。

5. 完成

スプーンをそえる。



栄養価

エネルギー	148(kcal)	カルシウム	18(mg)
たんぱく質	6.0(g)	鉄	1.1(mg)
脂質	7.9(g)	レチノール活性当量	79(μg)
食物繊維総量	6.8(g)	ビタミン B ₁	0.23(mg)
炭水化物	18.3(g)	ビタミン B ₂	0.09(mg)
食塩相当量	0.4(g)	ビタミン C	22(mg)

伊東 愛莉

「スプーンですくって食べるカラフルコロッケ」に対する講評

選考委員 杉野 香江

人口減少に伴い、個人にかかる労働負担は今後さらに大きくなると考えられます。伊東さんが考案されたレシピは、働き世代の家事負担を軽減しつつ、高齢者の健康寿命の延伸にも配慮しており、結果として労働力の確保に寄与すると考えられる点が「人口問題へのアプローチ」というテーマに適合しています。また、少子高齢化、生活習慣病予防、食品ロス削減といった複合的な課題に対し、多面的に取り組んでいる点も高く評価されました。

本レシピは、タイトルにも記載されている通り、コロッケの具材を透明なカップに詰めて仕上げる料理です。コロッケをカップに入るという発想自体が独創的であり、通常は見えない具材がカラフルに見えることで、見た目も楽しむことができます。また、カップに入れることで、1人分が明確となり、過食防止や食品ロス削減に加えて、フタをして冷凍保存ができるなど、実用的な利点も備えています。これらの工夫は、家庭内の食環境改善に大きく貢献するものといえます。

食物栄養学科における今後の学びを活かし、食材の選択、調理方法の工夫を重ね、様々なレシピの考案に繋げていただくことを期待しています。このたびの新人賞の受賞、誠にありがとうございます。

佳作：天むすだんご

食物栄養学科 2年 鈴木 百香

1. 提供する対象とコンセプト

地域活性化を意識し、津市発祥の「天むす」をモチーフにした新感覚スイーツ「天むすだんご」を考案しました。天むすと聞くと名古屋を思い浮かべる人が多いですが、もともとの発祥地は三重県津市です。津市が天むす発祥の地であることは地元住民には知られていますが、他府県出身の学生や若い世代には、その由来や魅力が十分に伝わっていません。天むすが名古屋名物として知られるようになった背景¹⁾には、名古屋にのれん分けされたお店が津市の本店よりも有名になったことが要因とされています。

そこで、親しみやすい団子スイーツとして再構築し、地元の食材を活かした味わいで、津市ならではの伝統と現代風アレンジの融合を楽しんでもらえるよう工夫しました。

おにぎり部分には道明寺粉を使用し、お米本来のもちもちとした食感を表現しました。中には伊勢茶のパウダーと白あんを合わせた抹茶あんを包み、香り高く上品な味わいに仕上げています。えび天部分は、コーンフレークとホワイトチョコを混ぜて型どりし、見た目にも楽しい遊び心をプラスしました。

和と洋を組み合わせることで、従来の天むすのイメージに新しい驚きを感じてもらいたいこと、そして津市の新たなスイーツとして商品化しやすいことも意識しました。ひと口食べるごとに笑顔が生まれるスイーツになるように考案しました。

参考文献：

- 1) 東海テレビ放送、ルーツは実は三重にあり…『天むす』が名古屋名物として広がった意外なワケ 津と名古屋 2つの「千寿」tokai-tv.comhttps://www.tokai-tv.com/tokainews/feature/article_20230311_25853（閲覧日 2025年11月20日）

2. 出来上がり写真



※写真は2人分です

3. 1人分の分量

おにぎり部分	道明寺粉	15 g
	砂糖	3 g
	水	23 g
	白あん	30 g
	伊勢茶パウダー	0.4 g
	味付けのり	0.3 g
えび天部分	コーンフレーク	20 g
	ホワイトチョコ	20g
	いちごパウダー	0.3g



《断面の写真》

4. 作り方

《おにぎり部分》

- ① 耐熱ボウルに分量の水と道明寺粉を入れて軽く混ぜ合わせ、ラップをかけて電子レンジ(600 W)で5分程度加熱する。
- ② 加熱が終わったら、電子レンジに入れたまま10分程度蒸らす。
- ③ ②に砂糖を加えて全体的にゴムベラでよく混ぜる。
- ④ ③のおにぎり生地を1人分に分けておく。
- ⑤ 白あんと伊勢茶パウダーを混ぜ合わせ、30g程度に分割して丸める。
- ⑥ 1人分に分けておいたおにぎり生地を平たくつぶし、伊勢茶あん(⑤)を包んで成型する。
- ⑦ 味付けのりを⑥に巻き付ける。

《えび天部分》

- ① コーンフレークを砕く。(胴体：約15g しっぽ：約5g)
- ② ホワイトチョコを湯煎で溶かす。(胴体：約12g しっぽ：約7g)
- ③ 溶かしたホワイトチョコに砕いたコーンフレークを加えて混ぜ合わせる。
- ④ しっぽの部分にいちごパウダーを混ぜ合わせる。
- ⑤ ③と④をえび天の形になるように成型する。
- ⑥ しばらく置いて固める。
- ⑦ おにぎりの先端にえび天(⑥)を乗せる。

5. 栄養価

1人分の分量

栄養価	合計	内訳	
	天むすだんご1人分	おにぎり部分	えび天部分
エネルギー	304 kcal	110 kcal	194 kcal
たんぱく質	7.2g	4.2g	3.0g
脂質	8.6g	0.3g	8.2g
炭水化物	50.4g	23.5g	26.9g
食物繊維	3.0g	2.4g	0.6g
食塩相当量	0.5g	0g	0.5g
カルシウム	75 mg	25 mg	50 mg
鉄	1.2 mg	1.0 mg	0.2 mg
レチノール活性当量	30 μ g RAE	18 μ g RAE	12 μ g RAE
ビタミンB ₁	0.04 mg	0.02 mg	0.02 mg
ビタミンB ₂	0.11 mg	0.03 mg	0.08 mg
ビタミンC	1 mg	1 mg	0 mg



津市立三重短期大学
生活科学科
居住環境コース
2年生

高永叟

津市立三重短期大学 新キャンパス

三重短期大学が抱える建築的な限界と、津市中心部の衰退という課題を解決するため、偶然な出会いを生む動線構成と、より都市に開かれた空間をもつ『新たなキャンパス』を提案します。

建築的には、多様な動線・視線の交差・複層的なレイヤーを通して、学生が社会に出る前に幅広い体験と交流を得られる刺激豊かな環境を整えます。

都市的には、キャンパスを「お城前公園」と連続する位置へ移転することで、津城周辺の歴史資源とつながり、中心市街地に若者の流れを再び生み出します。

都市と大学が互いを拡張し合う
新たな『公共大学』を目的とします。



現状

三重短期大学は1952年に設立され、1966年に現在の敷地に移転して以来、およそ60年が経過しています。第一の課題は、施設の老朽化による機能的・物理的な限界です。第二に、社会に出る直前の大切な時期であるにも関わらず、変化の激しい現代において、多様な経験や偶然な出会いを生み出しにくい空間構成が問題とされています。第三に、少子高齢化の影響により人口・学生数が減少している中、津市内の人口分布が分散しており、地域における大学の役割の再定義が求められていると思います。このような課題を踏まえ、大学が地域とつながり、多様な交流を生み出す為「新しいキャンパス」を検討する必要があります。

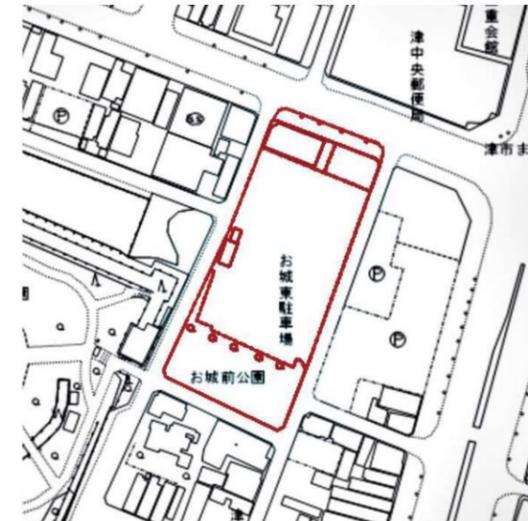


都市的提案

津市中心部と大学の断絶を解消するため、都市軸のお城前公園と大学をつなぐ開かれたキャンパスを提案します。多様な動線と複数の入口を配置し、都市の流れが建物内部へ自然に浸透する構成とします。学生と市民の動きが交差し滞留が生まれることで、中心市街地の活性化に繋がる地域型の公共大学を目指します。

敷地

敷地は、北側に歩道と往復4車線の道路に接し、東・西・南側は一方通行の道路に囲まれています。敷地面積は約6,000㎡で、建蔽率は80%、容積率は500%になって、現在は駐車場と公園として利用されています。周辺にはオフィスビルが多く立地しており、特に東側には百五銀行が隣接し、西側にはお城公園があります。



設計の概念

単一機能に閉じた従来の学校から脱却し、さまざまなプログラムや動線、視線が重なり合うことで、利用者ごとに異なる体験が生まれる環境を目指します。例えば、図書館が展示空間としても機能したり、カフェが学生と地域住民の交流の場となるなど、空間が柔軟に変化することで、日常的に新しい関係性や偶然な出会いを促進します。学校は静的な建築物ではなく、常に再編され続ける「関係のプラットフォーム」として存在するべきだと考えます。



建築的提案

都市の流れを建物内部で体験できるよう、大きな軸を中心に多層レベルと中庭を重ねた構成とします。開放的な廊下やポケットガーデン、ラーニングcommonsによって、偶然な視線や出会いが生まれ、内外が自然につながる学習環境を形成します。低層は公共性を高め、高層は学習に集中して新しいキャンパス像を作ります。



佳作：人口減少は労働力不足に直結するのか

～障害者雇用が見出す新たな職場の在り方～

生活科学科 2年 尾田 茉優

1. 人口減少の現状と障がいのある人の就労

日本の人口は、2004年に1億2784万人でピークを迎え、2025年現在は1億2319万人、高齢化率29.4%となっている。厚生労働省によると、2070年には9000万人台にまで減少することが予想されており、急速な人口減少が懸念されている。¹そのため、将来的な労働人口の減少が深刻な課題となっている。これまで日本の経済成長を支えてきたのは、多くの人口を基盤とした豊富な労働力であった。しかし、出生率の低下などにより、この基盤が揺らぎつつある。日本の総人口1億2319万人に対して、労働力人口は7170万人である。総務省の推計によれば、生産年齢人口は1995年をピークに減少を続けており、2040年には労働力人口が現在よりも約1,000万人減少すると見込まれている。²

これにより、税収減少による財政悪化や高齢化の進展とも相まった医療・介護分野での人手不足の拡大が一層懸念されている。そして経済活動を持続的に発展させるためには、労働力をいかに確保・維持するかが国家的な課題となっている。

このような現状に対応するため、国は少子化対策の強化や女性・高齢者の就労支援、外国人労働者の受け入れなど、さまざまな政策を展開している。しかし、これらの施策だけでは十分な効果を上げることが難しく、今後安定した労働力を確保するには限界があると考えられる。労働力人口が減少する中で、これまで十分に活用されてこなかった人材を活かす必要がある。その方法の一つが、障がいのある人々の力の活用であると考えられる。

日本には多様な能力や意欲を持ちながらも、障がいがあるという理由で働く機会を得られなかった人が少なくない。近年では、障害者雇用率の引き上げや、合理的配慮の義務化など、障がいのある人の社会参加を促す取り組みが進められている。障害者雇用を推進することは、単に労働力不足を補うという観点にとどまらず、すべての人が自分の持つ力を社会の中で発揮できる環境づくりにもつながる。すなわち、人口減少社会を乗り越えるためには、多様な人々がともに働き支え合う社会を築くことが不可欠であり、本稿では「障害者雇用」に着目したい。現在、障害者雇用枠で就労している人は約70万人である。³労働力人口とは、現在職に就いている人や、働きたい意思があり職があればすぐに働くことのできる人口のことを言うが、障がいのある人の就業者数は障がいのない人の約100分の1になる。

¹ 厚生労働省「我が国の人口について」

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_21481.html (2025年11月28日閲覧)

² 日本経済新聞「日本は「2040年に1100万人労働力不足」

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCB191080Z10C23A6000000/> (2025年11月24日閲覧)

³ 令和6年 障害者雇用状況の集計結果 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_47084.html (2025年11月24日閲覧)

2. 障がいのある人が働きやすい環境づくり

障害者雇用は重要な政策課題の一つであり、「障害者雇用促進法」をもとに中小企業を中心に障がいのある人の雇用を法的義務として定めている。だが、実際には多くの困難や課題が生じているのが現状である。企業の規模や業種にかかわらず、働く上でのルールや目標は各企業で定められているが、それが障がいのある人にとって実行が難しい内容である場合、就労はより困難になる。

厚生労働省は、企業に一定割合以上障がいのある人を雇用することを義務づける「障害者雇用率」を2024年度に2.5%から2.7%に引き上げる方針を示した。これは、障がいのある人々が働く機会を拡大する大きな一歩である。しかし、単に雇用率を上げることと働きやすい職場環境づくりは別問題である。雇用を継続的に支えるには、障がいのある人が安心して働ける職場環境の整備が不可欠である。例えば、障がいに対する理解を深めるための社員研修や、物理的なバリアフリー化などがその具体例として挙げられる。

実際に障害者雇用に積極的に取り組む企業の中でも注目されているのが、東京都に本社を置く「株式会社ゼネラルパートナーズ」である。⁴同社は「社会問題をビジネスで解決する」という理念を掲げ、障がいのある人の就労支援に特化した事業を展開している。特に、精神障がい者の教育研修やうつ病患者の社会復帰支援など、単なる雇用の確保にとどまらず、働く力を育む仕組みを整えている点に特徴がある。また、障がいのある人と企業をマッチングするための専門的なカウンセリングや職場定着支援も行っており、働き続けられる環境づくりに尽力している。

このような取り組みは、障がいのある人の自立を支援するだけでなく、企業にとっても多様な人材を活かすチャンスとなる。障がいのある人が働きやすい職場は、結果的にすべての従業員にとって働きやすい環境となり、企業全体の活力向上にもつながる。社会全体が「誰もが自分らしく働ける」ことを目指すためには、制度の整備だけでなく、企業内での障がいに対する理解を深め、受け入れ態勢を整えることも求められている。

障害者雇用の推進は、単に決められた数字を満たすことを目指すのではなく、人と人とが支え合い、多様性を認め合う社会を築くための基盤である。障がいを理由に働く機会が制限されることなく、やりがいを持って働くことの出来る社会こそが、これからの日本が目指すべき姿である。

3. 環境づくりを具体化するために ～ジョブコーチ～

障害者雇用を推進することは、社会全体で多様性を尊重し、共生社会を実現するうえで欠かせない取り組みである。しかし、現実には障がいのある人を一定割合以上雇用することで、業務の進行が遅れたり、作業ミスが増えたり自分の仕事が増えることへの懸念を抱く企業や社員も少なくないだろう。確かに、障がいのある人の中には、作業速度や理解の面でサポートを必要とする人もいだろう。しかし、それは決して特別なことではなく、障がいを持たない人であっても同じように未経験の仕事に戸惑い、失敗を重ねながら成長していく。重要なのは、障がいの有無で

⁴ ゼネラルパートナーズ <https://www.generalpartners.co.jp> (2025年11月25日閲覧)

はなく、支え合いながら働く姿勢を職場全体でどう築くかである。

障がいのある人が職場に加わることで、確かに新たな課題が生まれることもある。だが、それを問題として排除するのではなく、成長のきっかけとして受け止めることができれば、企業はより強く柔軟になるだろう。例えば、ミスが起きた際に原因を一人に押しつけるのではなく、全員で「なぜ起きたのか」「どうすれば防止できるのか」を考える。そうした話し合いや協力を積み重ねることは、単に作業効率を高めるだけでなく、職場の一体感や信頼関係を深めることにもつながる。また、障がいのある人に合わせた環境整備や工夫は、結果としてすべての職員にとって働きやすい環境となる。

障害者雇用は企業にとって新たな人材を確保するうえで必要な取り組みとなっている一方、受け入れに慣れていない企業では、業務がうまく回らなかつたり、障がいのある社員が十分に力を発揮できなかつたりすることも多い。そこで重要になるのが、ジョブコーチの支援と助成金の活用である。

まず、ジョブコーチによる支援をより利用しやすくすることが必要であると考え。ジョブコーチは、仕事の進め方を一緒に考えたり、周囲とのコミュニケーションを調整したりして、社員が働きやすい環境を整える役割を担う。社会福祉法人などには、「第一号ジョブコーチ」⁵が雇用される。現在の支援開始者数は増加傾向にある。⁶そのため、支援日数を増やすことで被支援者それぞれのニーズに対応する体制がとられている。一方で、ジョブコーチが複数人の支援を兼務する際の負担増や、多忙による支援技術向上の停滞といった課題も問題視されている。これを解消するためには、業務の安定化や処遇改善などが必要と考えられる。また、ジョブコーチを育てる研修の枠が少なく、必要な企業に十分な人数が行き渡っていない。そこで研修を増やす、オンラインでも受講できるようにするなどして、企業がジョブコーチを確保しやすくすることが大切である。ジョブコーチの仕事が安定し、支援が充分行き届くようになることで、障がいのある人に対して安心して働くことのできる場を提供することに繋がるだろう。

次に、助成金は「本当に必要なところに届きやすくすること」がポイントである。特に中小企業は受け入れ準備にお金と時間がかかる。その為初めて障がいのある人を雇用する企業への加算や、仕事に定着するまでのサポート費用を手厚く補助するしくみが不可欠である。また、助成金の使い道を柔軟にし、業務の見直しや企業が必要だと感じる部分に自由に使える枠を設けることも重要だ。ジョブコーチの処遇改善にもあてることができるとより良いだろう。さらに、障がいのある社員が長期にわたり就業し、定着すれば助成額が増えるようにすることで、企業全体で丁寧にサポートするきっかけにもなる。

4. まとめ

少子高齢化による人口の減少は、今後の日本社会において避けられない課題である。これまで経済成長を支えてきた労働力人口は最近では増加傾向にあるものの、人口の減少が進み続ければ

⁵ 障がいのある人が職場に適應できるようサポートする役割を担う。

⁶ ジョブコーチ支援制度の現状と課題に関する調査結果

<https://www.nivr.jeed.go.jp/research/report/shiryoushiryoushiryou74.html> (2025年11月25日閲覧)

安定した労働基盤を維持することは困難であると考えられる。そのため、すべての人がその力を発揮できる社会づくりが求められている。その中でも、障害者雇用の推進は、単なる人手不足の解消策ではなく、社会のあり方そのものを見直す契機である。障がいを持つ人々の就労を支援し、職場での合理的配慮や理解を広げていくことは、多様性を尊重し合う共生社会の実現につながる。

障害者雇用を進めることによって、企業は多様な人材の強みを生かし、柔軟で協力的な組織文化を育てることができる。障がいのある人が働きやすい職場環境は、結果的にすべての従業員にとっても働きやすい環境となり、生産性やモチベーションの向上にもつながる。また、共に働く中で、互いの違いを理解し支え合う姿勢が生まれ、職場全体の人間関係や信頼関係の強化にも寄与する。

今後の日本が人口減少社会を乗り越えるためには、誰もが能力を発揮できる仕組みづくりが欠かせない。障がいを理由に働く機会が制限されることのない社会を実現することこそが、持続可能で温かい社会への第一歩である。そのためには、ジョブコーチの仕事の安定化や助成金をより使いやすいものにする、補助金の交付や啓発活動を通して合理的配慮をあたりまえにすること、そしてそれは社会が中心となって担うことが重要である。簡単なことではないが、未来の日本を支える重要な方策となるだろう。

【参考文献】

「General Partners」

<https://www.generalpartners.co.jp> (2025年11月25日閲覧)

「日本財団はたらく障害者サポートプロジェクト」

https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/hataraku_nippon (2025年11月25日閲覧)

「人口減なのに就業者数最多 6781 万人－労働力調査：シニアと女性が押し上げ要因だが…」

<https://www.nippon.com/ja/japan-data/h02299/> (2025年11月25日閲覧)

「障害者雇用の基礎理解」

<https://www.jeed.go.jp/disability/data/handbook/q2k4vk000003p30i-att/q2k4vk000003p34u.pdf> (2025年11月25日閲覧)

「2040年問題とは？社会への影響、企業が直面する課題と対策を解説」

https://www.pasona.co.jp/clients/service/column/career/social_issues_around_2040/ (2025年11月25日閲覧)

「令和6年障害者雇用状況の集計結果」

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_47084.html (2025年11月25日閲覧)

人口減の世界 日本は「2040年に1100万人労働力不足」

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCB191080Z10C23A6000000/> (2025年11月25日閲覧)

ジョブコーチ支援制度の現状と課題に関する調査結果

<https://www.nivr.jeed.go.jp/research/report/shiryou/shiryou74.html> (2025年11月25日閲覧)

職場適応援助（ジョブコーチ）支援事業について

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/shougaihakoyou/06a.html (2025年11月28日閲覧)

中島隆信（2006）『障害者の経済学』東洋経済新報社。

小倉昌男（2003）『福祉を変える経営』日経 BP 社。

川島聡 飯野由里子 西倉実季 星加良司（2016）『合理的配慮—対話を聞く，対話が拓く』有斐閣。

奨励賞：労働の面から捉えた人口流出問題についての考察

法経科第1部 1年 山口 来夢

人口問題とは、人口に関するさまざまな社会問題の総称である。この具体例としては、先進国の少子高齢化問題や開発途上国の人口増加等が挙げられる。これらの問題は、そのこと自体が問題視されるだけでなく、前者は経済の縮小や社会保障制度の維持困難、後者は食糧不足や水不足といったⁱ、さらなる問題をも引き起こす。現在の日本においても、人口問題は起きており、なかでも、人口流出は深刻な問題とされている。とりわけ、地域の発展に必要な不可欠である若年層は、就職の時期や大学進学に際して、地域を離れて都心部へ移動する 경우가非常に多いⁱⁱ。東京一極集中の進行によって、首都圏の人口が、2045年には約32.9%、2050年には、約33.7%を占めると予測されていることからⁱⁱⁱ、人口流出による地方の衰退をさらに重要な課題と再認識し、ただちに有効な改善策を講じる必要がある。人口流出問題の主な原因としては、とりわけ都心部と地方との賃金格差が挙げられる。そこで、本稿では、これら賃金格差を埋める賃金上昇政策の有効性判断を行ったうえで、労働の視点から人口流出問題の改善策を考察する。

まず、賃金格差について、それ以外の労働条件がまったく同一と仮定した場合、より賃金の高い企業への就職を求めることは、経済的な観点からいえば当然である。そのため、低賃金と人口流出には関係性があると考えるのが妥当であろう。内閣府の調査においても、都心部への人口流出の要因として、より高い賃金や雇用機会の存在が挙げられている^{iv}。これに加えて、とくに20代前半では、都心部への人口流入と賃金の間に相関関係がうかがえることから^v、人口問題と賃金の関係性は有意だと判断される。これらを踏まえたとしても、賃金が比較的低い地方から、賃金の比較的高い都心部へと人口が流出していくことは、直感的にも首肯でき、また、統計的にも理にかなっているといえる。しかしながら、「賃金の上昇」を掲げることが、人口流出問題の解決策として最も効果的であるといえるのだろうか。

たしかに、「賃金が増えた」という事実のみを捉えるのであれば、地方で働くことに対して、「より高い賃金を得られる環境で働くことができる」という利点生まれ、ある一定数の人口流出は抑えることができるだろう。これは先に挙げた内閣府の調査からも容易に想像しうることであり、合理的な政策である。

とはいえ、賃金上昇政策にはいくらかのリスクがあることも考慮しなければならない。そのリスクについて検討するに、下記の不利益と、そこから派生するリスクが複数考えられる。はじめに、賃金上昇政策を行うことによる不利益として、容易に考えられることは、企業の倒産である。そもそも経営が困難な企業において、賃金の引上げを行うことは難しく、それらの企業に賃金の引上げを強いれば、負債の増加やそれによる倒産が起こる。今回焦点を当てる地方においては、ほとんどの企業は資金力がそれほどまでに高いとはいえない中小・小規模事業者であるから^{vi}、より、このような経営難や倒産につながりやすい。さらに、この不利益から生じるさまざまなリスクを挙げると、以下のとおりである。

まず、企業の倒産が起これば、地域で職に就きたいと考えていた人の、就職先の選択肢が狭まることなどが挙げられる。また地域社会の形成や、発展に貢献したいと考える働き手がいたとしても、就職先がないためにやむを得ず、地方から都心部へ移動する可能性がないとはいえない。これは、そもそも、人口流出を抑制することや、その目的である地域の活性化をかえって阻害するもので

あると考えられる。

次に、地域のインフラを根底で支える中小企業の喪失によって、生活しにくい社会や、店舗等を通じた地域の交流が浅い社会が形成される。このような社会では、その地域に魅力を感じなくなった若者は、都心部へ流出し、高齢者においても、医療や介護、公共交通機関などの利便性を求めて、都心部へ流出してしまう。また、仮に高齢者が地域に残り続けたとしても、地域の人々との交流が希薄化した場合、孤独死が起きることや、災害時の救助に支障が出るなどのリスクも高まるだろう。

そのうえ、これまで中小企業の支えてきた地域の文化や産業が、それらの企業の倒産により、喪失してしまう恐れもある。伝統的に受け継がれてきた文化や産業が、直接的でないとはいえ、人口問題への対策である賃金上昇政策によって失われてしまうことは少なくとも正しいとは言えず、むしろ、これは人口流出以上の不利益とは言えないか。

つまり、この賃金上昇政策を行うことによって、より人口流出が促進される可能性と、それとは反対に、人口流出以外の不利益が生じるリスクがあるということがわかる。

思うに、前述のとおり、賃金はただ高めればよいというものではなく、その地域に見合ったものでなければならず、単に賃金上昇を求めることが、人口流出を抑制するための改善策として最適であるとは判断できない。

そうすると、妥当な賃金を設定するうえで、他の改善策をとる必要があるだろう。そこで、今回は以下に2つの解決策を提示する。

第1の策は、若者に地方への興味をもたせることである。これについては、主に2つの方法が考えられる。1つ目の方法は、高校や大学といった教育機関と地元企業とが連携することによって、自分たちの住む地域にどのような仕事があるのかを知る機会を増やすことである。これには企業による学校訪問や、授業として、学生のインターンシップを行うことがあるだろう。もちろん、明確な目標をもって地方から都心部へ移動し、就職や大学進学をする人もいるが、とくにそうした目標があるからではなく、働く機会の多さや、学ぶ場の数、またその知名度などで、都心部への移動を決める人は少なくない^{vii}。これらの学生は、地方に特別な魅力を感じていないために、このような選択をするのであって、仮に自分たちの学校で地域と結びつく職業や企業のうち、興味のある分野に触れることができれば、少なくとも、人口流出が抑制できるのではないか。2つ目の方法は、地域が抱える問題を知り、その解決策を考えることである。これには、地域の課題に触れ、どのような対策を講じるべきかを学校の授業という限られた時間の中で主体的に考えることで、自分自身が、地域を支える一員であることを自覚する機会を得ることができるという効果があるだろう。私が通っていた学校でも、それらが抱える問題を研究することによって、その解決策を講じ、研究成果を発表するという授業があった。そこでは、私たちの研究班を含めたほとんどの班も、最初はそれほど興味をもっていた印象はなく、積極的ではなかったようにも思われたが、中間発表の際には、多くの班が、新たな課題を設定して、研究を進め、より深い考察や調査を行うなど、主体性をもって課題解決に取り組んだ。この授業で得られたことは、各研究課題に対する知識のみならず、どれほど自分たちが社会に貢献し得るかを意識することの大切さであった。このように、地域の問題を知り、解決策を自ら提示することは、地域の一員として自覚をもつことにつながり、ひいては、地域に留まる契機にもなりうるのではないか。

第2の策は、働きながら育児や高齢者の支援をしやすい環境を整えることである。これには多くの措置があるが、ここでは、2つの例を挙げる。まずリモートワークやフレックスタイム制の導

入の促進がある。これにより、自分の生活に合った働き方を選ぶことができ、家で過ごす子どもや高齢者を見守りやすくなる効果が期待できる。たとえば、子どもや高齢者の転倒や発熱などの不測の事態が生じたとしても、自宅にいる時間を長く確保することができれば、それらを発見しやすくなると同時に、長期間にわたって世話をすることができ、働き手にはもちろん、高齢者や子どもの安心にもなると考えられる。次に、養老複合施設の導入である。養老複合施設とは、介護施設と保育施設が、隣接また同じ敷地内にある施設のことを指す。養老複合施設を設置するには、子どもが高齢者の薬を誤飲することや、高齢者の転倒の危険を考慮し、それを防ぐために、徹底した薬の管理や、お互いが座ったままの交流を行うことなどに細心の注意を払う必要がある。その一方で、メリットとして、高齢者の健康の維持や増進、子どものコミュニケーション能力の発達、それによる世代を超えたつながりの形成が、結果として、地域の活性化につながり、高齢者をもつ人にとっても、子どもをもつ人にとっても大きな利益となるだろう^{viii}。

以上のとおり、本稿では、単なる賃金上昇政策が内包するリスクに基づき、その有効性を検討した。その中で、新たな解決策としての労働と関連した賃金以外の要因がもたらす、地域への定着を促す政策について、いかなるものかを考察した。しかしながら、これはあくまで、人口流出を特定の側面から捉えたものにすぎない。なぜなら、人口流出の理由としては、労働の側面のほかにも、福祉や教育の充実、地方に対する満足度、女性の人口流出による地方の未婚率の上昇などが考えられるからである。要するに、人口流出がこのようなさまざまな要因の重なりによって生じるものであるゆえに、一つの面からのみ解決策を提示することでは、その解決策として、不十分だろう。したがって、当然のことながら、複数政策を講じることが、人口流出問題だけでなく、人口問題全体の解決につながる。

今後の課題としては、第1に、今回取り上げたいいくつかの例を取り入れやすくする方法について考えることである。たとえば、整理されたカリキュラムに、どのようにして地域問題解決の授業を継続的に組み込むか、地域の企業と連携するにあたり、企業側の負担を軽減するには、どのような方法が適切かなどを模索する必要がある。このように、実施を下げるからこそが、この政策の有効性を実現する第一歩となるだろう。第2に、先に述べたとおり、多様な面から人口流出の抑止策を考察することである。総務省の調査からは、男性と比べて、女性の人口流出の割合が高いことが示されている^{ix}。このような状況で、地方の婚姻を進める事業を行ったとしても、女性の参加数は相対的に低くなるため、あまり効果的ではない。ここで、婚姻率の上昇政策による直接的な効果は、少子化の抑制をいうことであるが、子どもを育てやすい環境や充実した教育といった他の政策も合わせれば、人口流出も抑制できるだろう。このように、複数の政策の組み合わせ方も問題である。

以上のとおり、本稿では、労働の視点を中心に検討を行ってきたが、先に挙げた多様な要因とその解決策についての考察や、それらのなす効果の相互作用については、言及することができなかった。したがって、今後の考察の検討課題としたい。

以上本稿は、地域で働くことの意義と、賃金以外の要素の必要性を若者や働き手に示した。これにより、自ら地方で働くことが、単なる労働としての意味をもつだけでなく、地域づくりを担う一員であるという認識をもたせることにより、人口流出を抑制することに加えて、ひいては、社会の形成を促すことを提言したものである。

参考文献

- ⁱ もったいない運送「なぜ途上国の人口は増加し続けるの？原因と問題点を解説」（2024年）〈<https://mottainai-exp.com/blog/371>〉。
- ⁱⁱ 内閣府「地域課題分析レポート（2024年秋号）」（2024年）〈<https://www5.cao.go.jp/j-j/cr/cr24-3/pdf/zentai.pdf>〉 11頁。
- ⁱⁱⁱ この推定については、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）－令和2（2020）～32（2050）年－」（2023年）〈<https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson23/1kouhyo/gaiyo.pdf>〉 17頁に基づき算出したものである。これに加えて、「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）－平成27（2015）～57（2045）年－」（2018年）〈<https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson18/1kouhyo/gaiyo.pdf>〉 16頁の2045年推計では、約31.9%であったことからみても、東京一極集中の進行が早まっていることが示唆される。
- ^{iv} 内閣府・前掲注2レポート14頁。
- ^v 内閣府・前掲注2レポート33頁。
- ^{vi} 中小企業庁「中小企業の企業数・事業所数－都道府県・大都市別企業数、常用雇用者数、従業者総数（民営、非一次産業、2021年）」（2021年）〈https://www.chusho.meti.go.jp/koukai/cho usa/chu_kigyocnt/2023/231213kigyoul.pdf〉。
- ^{vii} 内閣府・前掲注2レポート21頁。
- ^{viii} これは、一見すると本稿の主旨である「労働の視点から人口流出問題の改善策を考察」することとは無関係であるように捉えられうるが、保育士と介護士が共通の業務を協力・分担して行うことによる作業の効率化により、柔軟な勤務時間の調整や開所時間の延長などを図ることが可能であれば、保育士・介護士はもちろん、現在において送迎時間に労働時間が左右されている労働者の保護に足るという観点から、本稿で取り上げるものとした。
- ^{ix} 男女共同参画局「特集 男女共同参画の視点から見た魅力ある地域づくり」（2024年）〈https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r07/zentai/html/zuhyo/zuhyo00-04.html〉による。

2. 参 考 資 料

[応募ポスター]

[募集要領]

[表彰式次第]

<応募ポスター>

津市立三重短期大学・三十三総研主催



三十三総研

第19回

小論文・作品コンクール

テーマ「人口問題へのアプローチ～地域社会の未来に向けた私の提言～」



※イラスト制作：山崎愛莉(法律コース)

作品募集

表彰

- 最優秀賞 (賞状、副賞5万円) 1作
- 学長賞 (賞状、副賞3万円) 1作
- 優秀賞 (賞状、副賞3万円) 2作
- 新人賞 (賞状、副賞3万円) 1作
- 佳作 (賞状、副賞2万円) 3作
- 奨励賞 (賞状、副賞2万円) 1作

※「新人賞」「奨励賞」は1年生が対象となります。

応募期間

2025年
7月1日

12月1日

提出先

〒514-0112 三重県津市一身田中野157
津市立三重短期大学事務局大学総務課
[第19回小論文・作品コンクール]係(持参、郵送とも可)

協賛

三重法経学会、生活科学研究会、食物栄養学研究会
三重短期大学同窓会、三重短期大学教育振興会

問合せ先

津市立三重短期大学[第19回小論文・作品コンクール]
大学総務課内地域連携センターTEL:059-232-2341

【詳細はこちら】



<募集要領>

募集要領

津市立三重短期大学・三十三総研主催

第19回 小論文・作品コンクール

人口問題へのアプローチ～地域社会の未来に向けた私の提言～

趣 旨

津市立三重短期大学と三十三総研の地域貢献を目的とする産学連携推進事業の一環として、学生の新鮮な知性・感性を活かした小論文・作品コンクールを実施します。

テ ー マ

「人口問題へのアプローチ～地域社会の未来に向けた私の提言～」

日本では急速な少子高齢化や人口減少が進行しています。特に地方では、若年層の都市部への流出が顕著であり、少子高齢化に拍車をかけている状況です。人口問題は、単に数字の変化にとどまらず、消費の低迷や労働力不足を引き起こすほか、公共交通機関の廃止や医療機関の減少といった人々の生活に必要なサービスが維持できなくなるなど、その影響は幅広い分野に派生しています。

そこで、今回は皆さんが専攻している学問から様々な人口問題に多角的にアプローチしていただき、どうすればより良い地域社会の新たな未来が切り開けるかを考えてください。

[テーマ設定に関して、次のような切り口があります]

- 【人口動態】…… 出生率、死亡率、自然増減、社会増減、合計特殊出生率、高齢化率、平均寿命、健康寿命、人口構成、人口ピラミッド、人口推計
- 【少子高齢化】…… 少子化、高齢化、家族形態、育児・介護問題、医療福祉制度、出会いの場の創出、非婚化、晩婚化
- 【地域格差】…… 飢餓、都市部と地方、過疎化、過密化、人口流動、地域活性化、地方創生、空き家問題、住宅不足、限界集落、消滅可能性自治体、デジタルデバイド
- 【国際社会】…… 人口増加と開発途上国、人口減少と先進国、移民、難民、国際協力、多文化共生、インクルーシブデザイン、ユニバーサルデザイン
- 【政策】…… 子育て支援、ワークライフバランス、男女共同参画、高齢者雇用、社会保障制度改革、移民政策、インフラ整備、まちづくり、コンパクトシティ、災害対策
- 【経済】…… 生産年齢人口、労働力人口、消費市場、社会保障費、財政赤字、経済成長、イノベーション、働き方改革、労働力不足、U・I・J・孫ターン、事業承継
- 【環境】…… フードロス、フードテック、水資源問題、エネルギー問題、環境破壊、持続可能な開発、再生可能エネルギー、グリーンテクノロジー
- 【その他】…… ジェンダー、ダイバーシティ、文化、DX、GX、生成AIなど

募集部門

小論文部門、レシビ部門、デザイン部門

応募資格

津市立三重短期大学在学学生(科目等履修生も含む)。グループによる応募も可。
ただし、参加賞は1作品につき1部進呈。

応募規定

表面のQRコード、もしくは以下アドレスよりアクセスし、本規定を熟読の上、ご応募下さい。
<https://www.tsu-cc.ac.jp/chiren/chiren-sangaku/chiren-concour/>

募集期間

2025年7月1日～2025年12月1日 締切厳守

(窓口提出:17:00まで、郵送:当日必着)

提出先

〒514-0112 三重県津市一身田中野157
津市立三重短期大学事務局 地域連携センター(大学総務課内)
「第19回小論文・作品コンクール」係 (持参、郵送とも可)

表彰

	最優秀賞	学長賞	優秀賞	新人賞	佳作	奨励賞
入賞作品数	1作	1作	2作	1作	3作	1作
副賞	賞金5万円	賞金3万円	賞金3万円	賞金3万円	賞金2万円	賞金2万円

※「新人賞」「奨励賞」は1年生が対象となります。(グループの場合も1年生グループのみ)

入賞発表
及び表彰式

2026年1月中旬に入賞者を大学掲示板への掲示によって発表し、同下旬に表彰式を行います。
また、入賞作品は津市立三重短期大学HP及び三十三総研HPに掲載するほか、作品集として印刷配布します。

選考

選考委員会を設置した上で、厳正なる審査を実施します。

その他

- 応募作品は返却しません。
- 入賞者の所属・氏名は公表します。
- 応募にかかわる個人情報は津市立三重短期大学、三十三総研にて管理し、本コンクール以外の目的には使用しません。

<表彰式次第>

日時：2026年1月29日（木）14:00～15:30

場所：津市立三重短期大学 校舎棟4階41教室

式 次 第

司会：石原 洋介（津市立三重短期大学地域連携センター長）

一、 開式

一、 主催者挨拶

コンクール選考委員会委員長 村井 美代子（津市立三重短期大学学長）

一、 募集ポスターデザイン制作者紹介

山崎 愛莉（法経科 第1部 法律コース）

一、 入賞者表彰

一、 受賞者挨拶及びプレゼンテーション

【小論文・レシピ・デザイン部門】

最優秀賞 高坪 龍司（生活科学科）

学長賞 向井 望（食物栄養学科）

優秀賞 新貝 柚乃（食物栄養学科）

優秀賞 中路 新平（法経科第2部）

新人賞 伊東 愛莉（食物栄養学科）

一、 レシピ部門入賞作品試食（協賛：三重短期大学同窓会）

「トルネードッグ～伊勢うどん巻き～」

「炊飯器で出来る！かぼちゃ入りキャロットケーキ」

一、 共同主催者挨拶

コンクール共同主催者 東海 悟（株式会社三十三総研 代表取締役社長）

一、 津市講評

津市長 前葉 泰幸

一、 閉式